

## 「御霊」のゆくえ

人が亡くなると、故人の御霊はどこに行くのでしょうか。

これは日本人が古の時から今日にいたるまで、抱いてきた問いです。神話の中では高天原、黄泉の国、根の国など、さまざまな表現で語られてきました。

例えば御霊は遠いどこかに行くのではなく、ただそばにとどまり続けると考えられるのが幽世です。故人の御霊は私たちが会いたいと願うとき、いつでも来てくれるものだという、やさしくあたたかな捉え方です。

幽世は私たちのふるさとと生活とに繋がるところ。故人の御霊はいつでも私たちのそばにあり、子孫の暮らしを見守っているのです。ですから神道では故人が亡くなったことを「帰幽」といいます。

神葬祭の意味や儀礼を知ること、御霊のあるところに思いを致しましょう。



## 神葬祭

私たち命あるものは何人といえども死を免れることはできません。肉親の死などに直面した時、私たちは悲しみの中、故人を見送りますが、その際さまざまな儀式を行います。いうまでもなく仏教には仏教式の、キリスト教にはキリスト教式の葬儀があります。神葬祭は神道の儀礼にのっとった葬儀で、日本固有の葬法を土台に整えられたものです。

神葬祭の特徴は、

- 厳かで慎み深く簡素である
- さまざまな制約が少なく、経済的負担が軽い
- 地域の氏神さまとの関わりをもてる
- 子孫や地域の方にも思いを引き継げる

などがあげられます。

初宮参り、七五三、季節行事など、人生のさまざまな場面で関わりのあった氏神さまの神職に神葬祭を行っていただくことで、故人にとっての人生儀礼の最後を締めくくりましょう。

